

コンタクトレンズは怖いもの？

岡宮眼科（北宇和郡鬼北町） 岡宮 史武

CL（コンタクトレンズ）の使用者は、約1,500万人と言われています。国民の8人に1人がCLを使用している計算になり、しかも、実際にCLを使用している年代を考慮すると、5人に1人がCLを使用していると言われています。

CLは大きく分けてハードレンズとソフトレンズがあります。使用期限としてはハードレンズが約2〜3年、ソフトレンズは約1年使える従来型で1日・2週間・1カ月などで交換する使い捨て型があります。平成17年4月の薬事法改正により、今まで管理医療機器に分類されていたCLが、より危険性の高い高度管理医療機器に分類されました。その後、平成23年にはそれまで雑貨とされていたカラーCLが同じように高度管理医療機器に指定されました。高度管理医療機器とは、副作用・機能障害を生じた場合、人の生命・健康に重大な

影響を与えるおそれがある医療機器で、他には心臓ペースメーカーなどが分類されています。

しかし、高度管理医療機器に指定されたにもかかわらず、CL使用で目に障害を起こす人は増えています。

日本眼科医会の報告では、CLが原因で角膜（黒目）障害を起こす人は、年間150万人発生しているという報告があります。CLを約1,500万人が使っているとすれば、障害の起こる可能性があるのは10人に1人です。障害としては、アレルギー性結膜炎、角膜の表面に細かい傷がつく点状表層角膜症、角膜上皮がはがれる角膜びらんが多く、角膜潰瘍になって失明したり、角膜混濁の為に角膜移植をするケースもありました。

障害の原因は、使用期限・使用方法を守らない、洗浄不良・不適切な消毒などの不適切使用が最も



多く、その他には、購入時の説明や指導がなかった・受けなかったなどです。

角膜には血管が無く、涙を通して空気中の酸素を取り入れるため、CLによって酸素不足になり、障害や感染を起こしやすくなります。また、今主流のソフトレンズは薄くて装着感が良い反面、目の障害に気づきにくいという短所もあります。CLは便利ですが、目にとっては異物です。異常があればすぐ外し、異常がなくても定期検査を受けることをお勧めします。

この夏休みにCLデビューを考えている人もいるかもしれません。初めての人はきちんと眼科専門医を受診し、よく説明を聞いたうえで自分に合ったタイプのCLを選び、取り扱いやし入れの説明を納得いくまで受けることをお勧めします。

CLの取り扱いに慣れるには個人差があります。当然、すぐにそれができるわけではありません。受診の際は時間に余裕をもって、遅くても診療時間の終わる1時間前までには受診することをお勧めします。また、施設を選ぶときは、自宅の近くだけでなく、通勤・通学なども考え、通いやしやすい施設を選ぶことも大切です。

今現在CLを使用中の人も、きちんと検診を受けていますか？特に、使い捨てでないタイプのソフトレンズやハードレンズを使っている人は、定期健診を受けていない人が多いのではないのでしょうか？CLは見え方だけでなく、角膜への乗り方や傷や汚れのチェックも大切です。使っているうちにレンズや角膜の形が変わっていることもあります。違和感を感じたり、見えにくくなったときだけ受診するのではなく、調子が良くても3カ月に1度くらいは眼科でCL検診を心がけ、快適なCL生活を送ってください。また、進学、就職などで遠隔地に住んでいるお子さんなどにも、必ず検診を受けるように伝えてください。